

# インフルエンザ

にご注意ください！！

## 風邪とインフルエンザの症状の違い

風邪(感冒)		インフルエンザ
飛まつ感染	経路	空気感染、飛まつ感染
37~38°C	発熱	37~40°C
ゆるやか	進行	急激
くしゃみ、鼻づまり、せき、のどの痛みなど、局所的な症状がほとんど	症状	筋肉痛、倦怠感など全身症状をとまう。熱性けいれん、脳症、肺炎、気管支炎など、合併症がある



※インフルエンザの検査では、ある程度インフルエンザウイルスが増殖していることで正確な診断ができます。また、インフルエンザに対する治療薬を投与するのは、48時間以内が望ましいため、できれば検査を受けるのは発熱から12時間~48時間以内がよいと言われています。

## インフルエンザにかかったら...

文部科学省の学校保健安全法では「インフルエンザの症状が始まった日(発症日)の翌日を1日目とする」としています。例えば、発症から5日経過する前に解熱後3日を経過しても、発症から5日間を経過するまで登園出来ません。また、発症から5日を経過しても、解熱までに日数がかかった場合、解熱後3日を経過するまで登園出来ません。



## インフルエンザの出席停止期間(幼稚園児・保育園児)

	発症日	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目
発熱 1日目	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり
発熱 2日目	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり
発熱 3日目	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり
発熱 4日目	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり
発熱 5日目	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり	発熱あり



発熱あり (出席停止)



発熱なし (出席停止)



登園可能

インフルエンザに発症した日を0日目として5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過した翌日に健康が回復していれば通園可能となります。 ※発熱と解熱がともにあった日は「発熱あり」とする。再発熱した場合は最後に解熱してから4日後に通園可能。

インフルエンザにかかった場合、上記の期間が出席停止の目安になります。また、罹患後に初めて登園する場合は医師に書いていただく「意見書」を職員に提出して下さい。



★病児室ではインフルエンザのお子さんでも利用可能です。ご利用の際は、発症したらまず病児室の空き状況をおたずねください。

## インフルエンザを予防しよう!

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみで口から出る小さな水滴(飛沫)による飛沫感染です。たとえ感染者であっても、全く症状がない(不顕性感染)例や、感冒様症状のみでインフルエンザウイルスに感染していることを本人も周囲も気が付かない軽症の例も少なくありません。したがって、周囲の人にうつさないよう、予防することも大切です。



裏面に続く

# 熱性けいれん

熱性けいれんは、6か月~5歳ごろのお子さんが急な発熱に伴って意識障害、けいれんを引き起こす病気です。通常38°C以上の発熱時で急激に体温が変化するとき起こり、発熱後24時間以内に起こすことが多いです。30%近くが繰り返しますが、成長に伴い6歳前後でほとんど起こさなくなります。

## 原因

発育途上の幼弱な脳神経細胞が急な体温の変化に弱いために起こります。通常38°C以上の発熱時に、意識障害やけいれんを起こします。けいれんを起こす他の病気がないことが条件になります。遺伝的な要因もあり両親に熱性けいれんがあると2~3倍頻度が多くなるといわれます。発熱の原因としては突発性発疹、夏かぜ、インフルエンザなど急に高熱を出す疾患で多いようですが、高熱をきたす疾患はすべてけいれんのきっかけになります。

参考：筑後市立病院【熱性けいれんのお話】

## 症状



## 対処法

熱性けいれんは、だいたい5分以内で治まる場合が多いです。また、数分で治まるけいれんの場合は、脳に後遺症を残したり、命の危険があったりするものは少ないです。まずは、以下の応急処置を取ってください。慌てず、落ち着いて対処しましょう。

- ・首の周りなどを締め付けないよう、衣服を緩める
- ・平らなところに寝かせる
- ・嘔吐が見られる場合は、顔を左に向けて吐いた物が気道に詰まらないようにする
- ・口や鼻の周りの吐物を拭き取る
- ・診察時に備えて、けいれんの様子(左右差)や持続時間、体温などを確認しておく(余裕があれば動画に撮っておく)

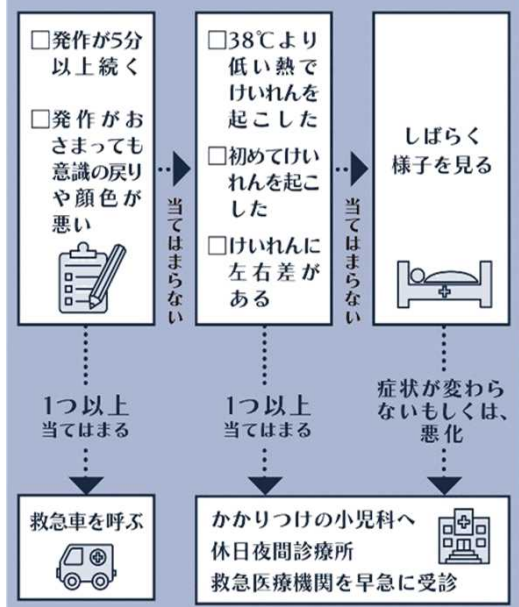
## してはいけないこと

- ・大声で名前を呼んだり、身体を揺すったりする
- ・舌を噛まないように口の中に物を入れる

熱性けいれんでは激しい症状が出ますが、症状の多くは2、3分で治まります。

まずはしばらく様子を見ましょう。ただし、発作が5分以上続く、また発作が治まっても意識の戻りや顔色が悪いなどがあれば救急車を呼んだり、早急な受診が必要なものもあります。こういった時に救急車を呼ばなければいけないか、また早めに受診させるべきかについては、右図をご参照ください。

## 熱性けいれんの対処法



参考：いしゃまち【熱性けいれんを起こしたら、知っておきたい対処法】